

# 中小企業景況レポート

vol.56

2018.7~9

## 業況判断D I 7月~9月は5.2となり3期ぶりのプラス

### 【2018年7月~9月期の業況判断D I】

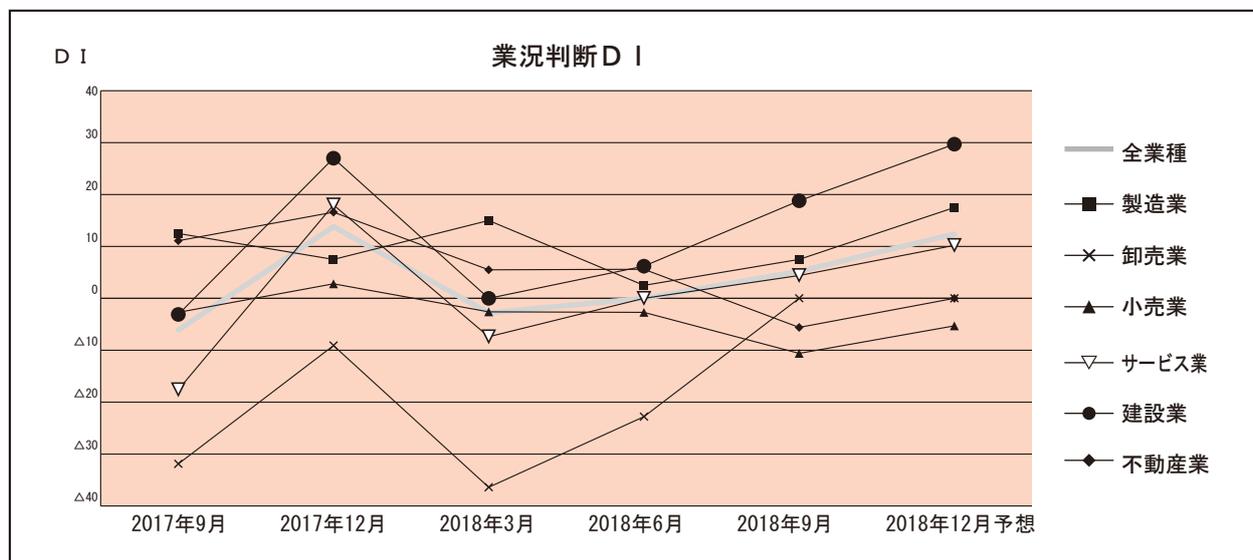
今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で5.2ポイント上昇し5.2となりました。前回調査比で製造業、卸売業、サービス業、建設業の4業種において業況判断D Iが上昇しました。

### 【2018年10月~12月期の予想業況判断D I】

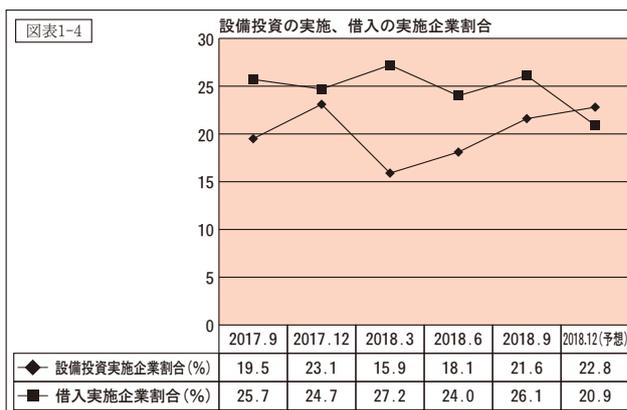
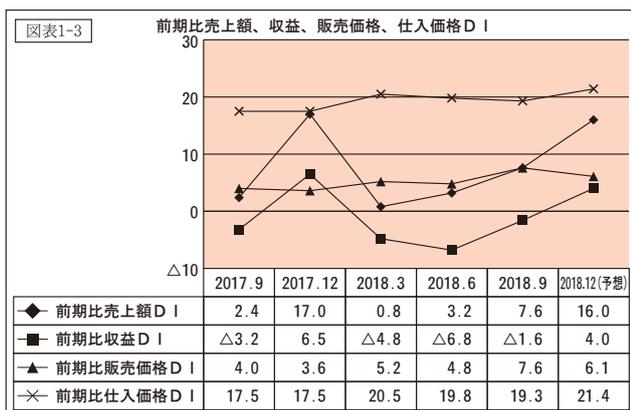
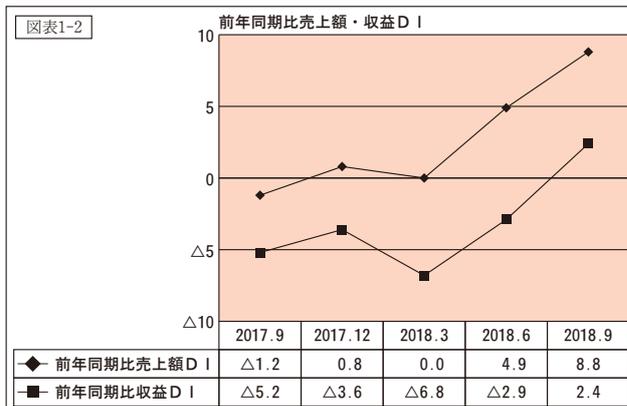
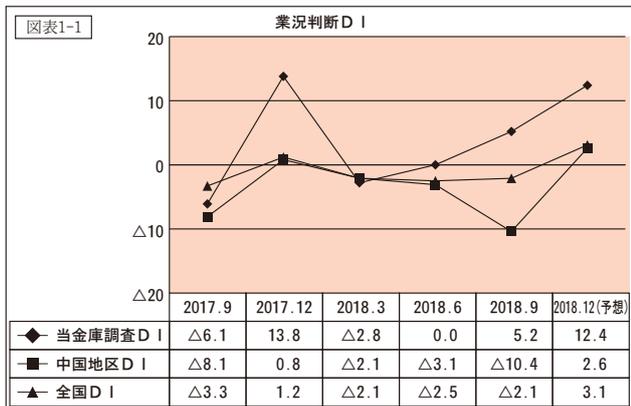
次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で7.2ポイント上昇し12.4となっています。

業種名	時期	2018年 4月~6月	2018年 7月~9月		2018年 10月~12月 (予想)	
全業種総合		☁ 0.0	↗ 5.2	☁ 5.2	↗ 7.2	☁☀ 12.4
製造業		☁ 2.5	↗ 5.0	☁ 7.5	↗ 10.0	☁☀ 17.5
卸売業		☂ △22.8	↗ 22.8	☁ 0.0	↗ 0.0	☁ 0.0
小売業		☁ △2.7	↗ △7.9	☂ △10.6	↗ 5.3	☁ △5.3
サービス業		☁ 0.0	↗ 4.4	☁ 4.4	↗ 5.8	☁☀ 10.2
建設業		☁ 6.2	↗ 12.6	☁☀ 18.8	↗ 10.9	☁☀ 29.7
不動産業		☁ 5.6	↘ △11.2	☁ △5.6	↗ 5.6	☁ 0.0

景況  
天気図  
の目安
 D I 好調 ←
 30以上 ☀
10以上30未満 ☁
0以上10未満 ☁
△10以上0未満 ☁
△30以上△10未満 ☂
△30未満 ☂
 → 低調



# 全業種総合



## 景況 ～業況判断D I 5.2となり3期ぶりのプラス～

今期の業況判断D Iは全業種総合で前回調査比**5.2ポイントの上昇**により0.0→5.2となりました。中国地区D I (△10.4)、全国D I (△2.1)ともにマイナスである中、当金庫営業エリアの景況感は高くなっています。なお、次回調査期間(2018年10月～12月)の業況判断D Iも5.2→12.4と、今回調査比**7.2ポイントの上昇予想**となっています(図表1-1)。

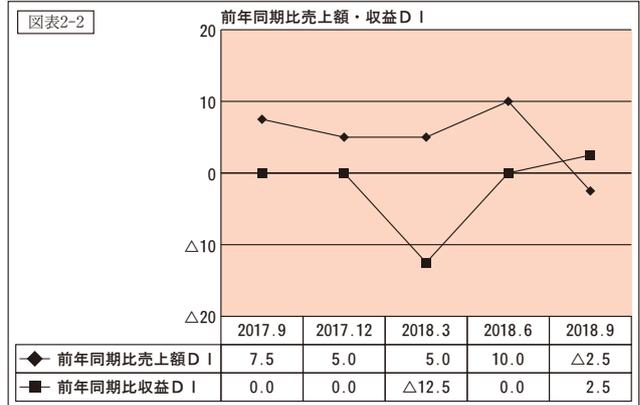
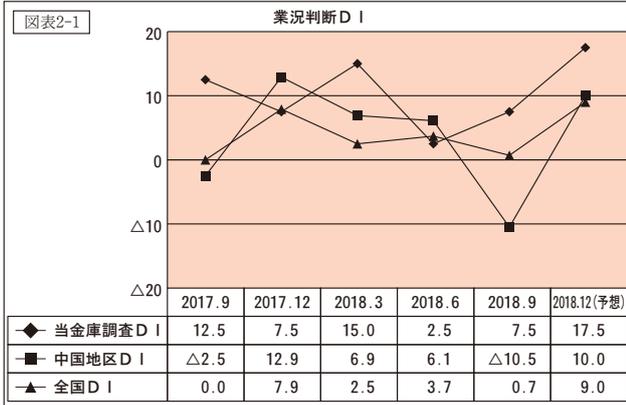
前年同期比売上額D Iは8.8、同収益D Iは2.4といずれもプラスであり、1年前と比較しても景況感が高まっています(図表1-2)。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は21.6%となり、前回調査比で3.5ポイントの上昇、借入を実施した企業の割合は26.1%となり、前回調査比で2.1ポイントの上昇となりました。

次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は22.8%であり今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して1.2ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は20.9%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して5.2ポイントの低下となっています(図表1-4)。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業は46.7%(前回調査比同数値)であり、設備投資意欲は徐々に高まっているようです。

# 製造業



## 景況 ～今期上昇 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは2.5→7.5と前回調査比**5.0ポイントの上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは7.5→17.5と**10.0ポイントの大幅上昇予想**となっています（図表2-1）。

今回調査期間中に発表された岡山県金融経済月報（以下、「日銀月報」）によると、生産活動は7月の豪雨災害により「一時的に減少」したものの、8月に入り「増加している」との判断であり、高操業の自動車向け、建築資材向けの鉄鋼生産が高めの水準となっています。また、工作機械なども国内外の旺盛な受注により生産水準が高まっているとのことであり、製造業は当面景況感が高めに推移するものと考えられます。

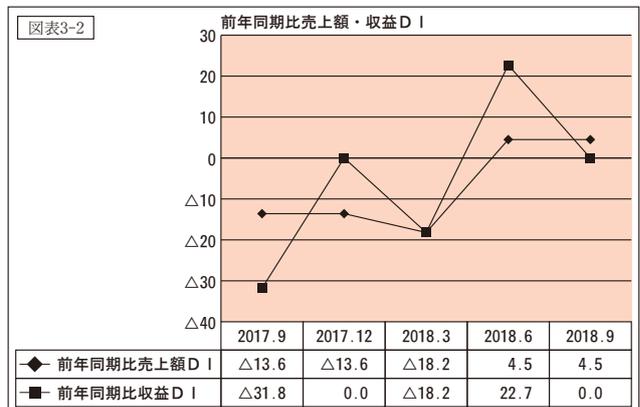
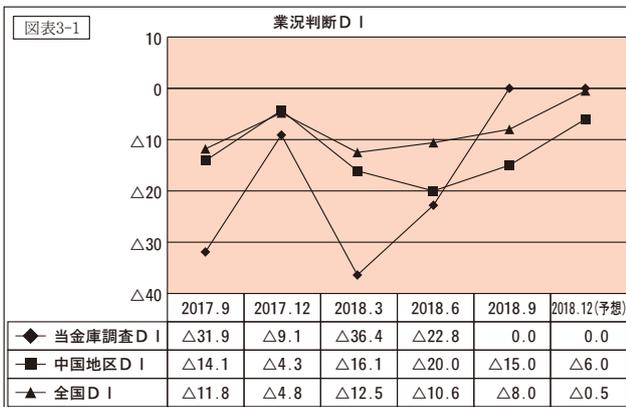
経営上の問題点において「原材料高」との回答が大幅に上昇していることから、高操業のもとで利幅の確保がポイントとなってきます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	35.0%	原材料高	25.0%	人手不足 同業者間の競争の激化	22.5% 22.5%
当面の重点経営施策	販路を広げる	62.5%	経費を節減する	27.5%	情報力を強化する	25.0%

# 卸売業



## 景況 ～今期大幅上昇 来期は横ばいの予想～

今期の業況判断D Iは△22.8→0.0と前回調査比**22.8ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは**0.0と横ばいの予想**となっています（図表3-1）。

前年同期比売上額は4.5とプラスですが、同収益D Iは0.0と収益面は依然厳しいようです（図表3-2）。

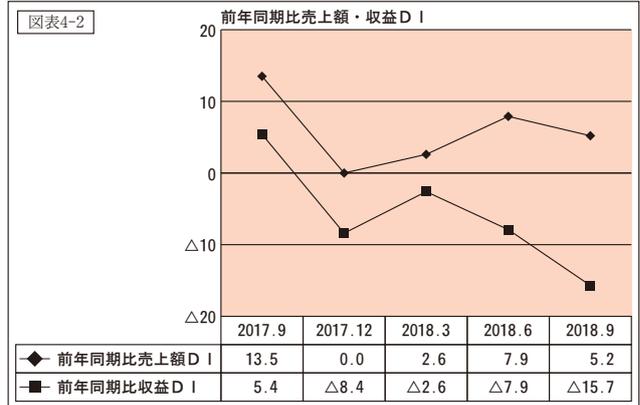
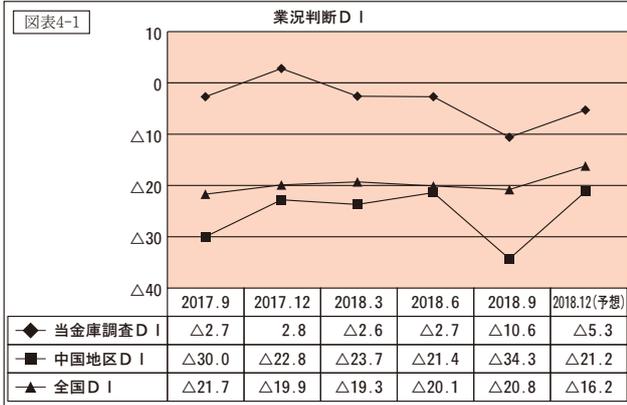
また経営上の問題点における「売上の停滞・減少」「同業者間の競争の激化」の回答率が上昇していることなどから、本格的な景況感の回復には至っていないことが窺えます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	59.1%	人手不足	13.6%	輸入製品との競争の激化 仕入先からの値上げ要請 人件費以外の経費の増加	9.1% 9.1% 9.1%
当面の重点経営施策	販路を広げる	81.8%	経費を節減する	40.9%	取引先の減少 提携先を見つける	9.1% 18.2%

# 小売業



## 景況 ～今期低下 来期は上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△2.7→△10.6と前回調査比7.9ポイントの低下となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△10.6→△5.3と5.3ポイントの上昇予想となっています(図表4-1)。

前年同期比売上額D Iは5.2とプラスですが、同収益D Iは△15.7であり収益性が改善されていないことが窺えます(図表4-2)。

「日銀月報」によると、個人消費は「持ち直し基調」との判断ですが、7月の豪雨災害により主要観光地への入り込みが前年を下回っており、観光関連の店舗に大きな影響を与えています。

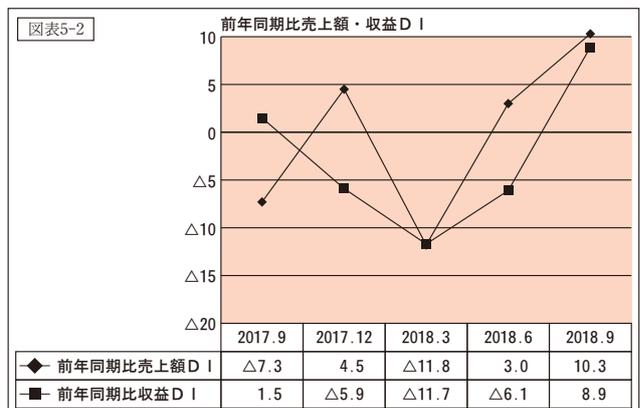
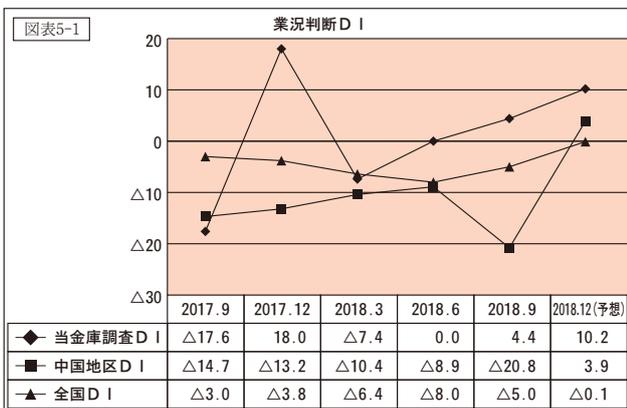
経営上の問題点では「同業者間の競争の激化」との回答率が大幅に上昇しており、小売業を取り巻く経営環境は依然厳しい様子が窺えます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	44.7%	売上の停滞・減少	36.8%	人出不足 大型店との競争激化	28.9%
当面の重点経営施策	経費を節減する	47.4%	宣伝・広告を強化する	39.5%	売れ筋商品を取扱う	28.9%

# サービス業



## 景況 ～今期上昇 来期も上昇の予想～

今期の業況判断D Iは0.0→4.4と前回調査比4.4ポイントの上昇となりました。来期の予想業況判断D Iは4.4→10.2と5.8ポイントの上昇予想となっています(図表5-1)。

前年同期比売上額D Iは10.3、同収益D Iは8.9といずれもプラスとなり、1年前と比較しても景況感の回復が窺えます(図表5-2)。

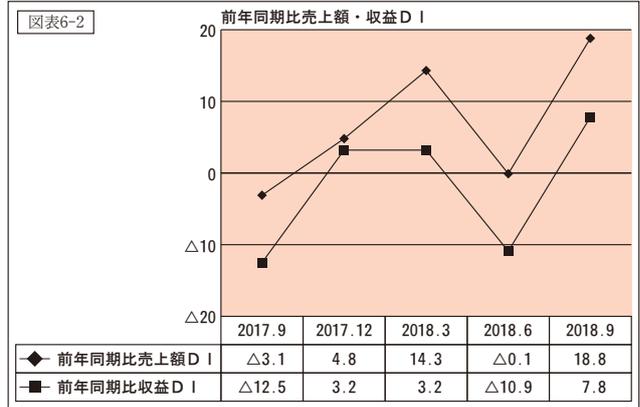
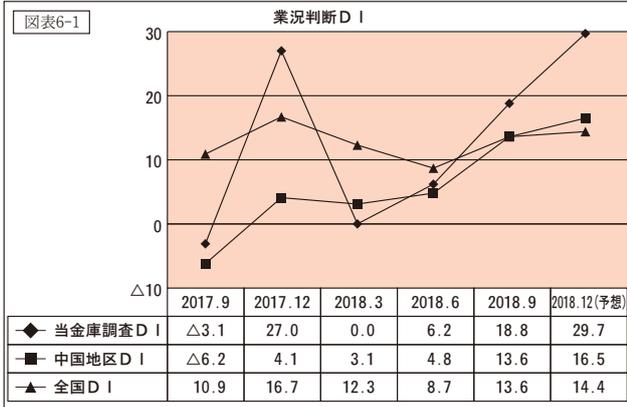
当面の重点経営施策において「人材を確保する」「技術力を強化する」との回答率が上昇していることから、「スキルを持った人材の育成・確保」が課題となっていることが窺えます。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	36.8%	人手不足	33.8%	同業者間の競争の激化	27.9%
当面の重点経営施策	販路を広げる	41.2%	経費を節減する 人材を確保する	39.7%	技術力を強化する	23.5%

# 建設業



## 景況 ～今期大幅上昇 来期も大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは6.2→18.8と前回調査比**12.6ポイントの大幅上昇**となりました。なお、来期の予想業況判断D Iは18.8→29.7と**10.9ポイントの大幅上昇予想**となっています（図表6-1）。

前年同期比売上高D Iが18.8、同収益D Iが7.8といずれもプラスに転じており（図表6-2）、一時期停滞感の強かった建設業において景況感が高まっています。今回調査期間では7月の豪雨災害の復旧に関する受注により一時的に繁忙となっていますが、今後数年内は、岡山市中心部において多くの再開発事業が進む予定であり、同業種は当面活況を呈すものと考えられます。

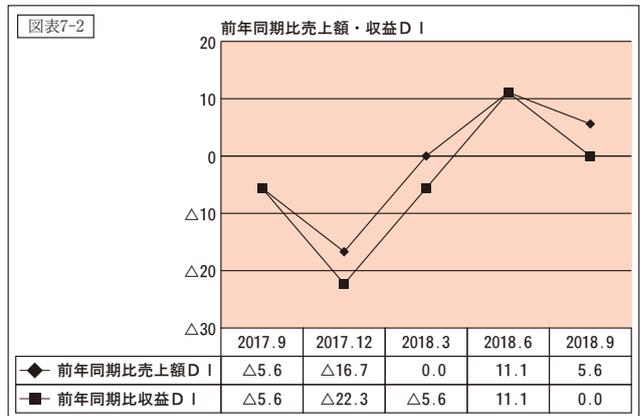
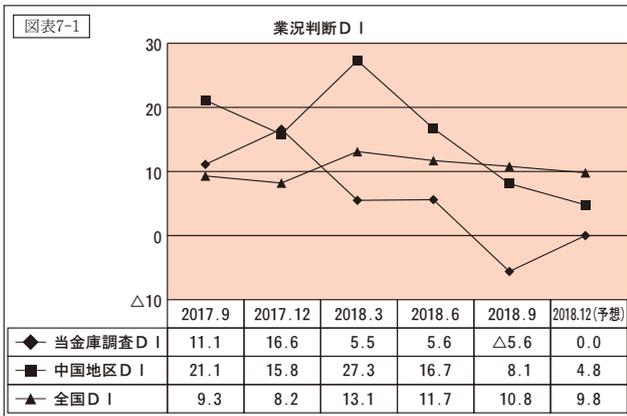
経営上の問題点、当面の重点施策では依然として「人手不足」「人材を確保する」の回答率が高止まっており、受注をこなしていくうえでの深刻な問題となっています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	人手不足	42.9%	売上の停滞・減少	27.0%	同業者間の競争の激化	25.4%
当面の重点経営施策	人材を確保する	44.4%	経費を節減する	42.9%	技術力を強化する	30.2%

# 不動産業



## 景況 ～今期大幅低下 来期は上昇の予想～

今期の業況判断D Iは5.6→△5.6と、前回調査比**11.2ポイントの大幅低下**となりました。なお、来期の予想業況判断D Iは△5.6→0.0と**5.6ポイントの上昇予想**となっています（図表7-1）。

前年同期比売上額D Iは5.6、同収益D Iは0.0となっており、景況感が高かった直近1年間と比較して停滞感が出てきているようです（図表7-2）。

経営上の問題点における「商品物件の不足」が「商品物件の高騰」に繋がっていると考えられ、「情報力を強化」して優良な物件をいち早く確保することがポイントとなっています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	商品物件の不足	38.9%	利幅の縮小	33.3%	商品物件の高騰	27.8%
当面の重点経営施策	情報力を強化する	50.0%	経費を節減する 宣伝・広告を強化する	38.9% 38.9%	販路を広げる	16.7%

## 調査先企業の声

### 製造業

- ・受注は増加見込みであるが、人材不足が問題点となっている。人材確保と人材育成を早急におこないたい。  
【製缶・板金加工】
- ・業況は前年の同時期に比べ良好な様子である。単価は変わらず厳しいが、受注が増加しており利益は計上できている。【強化プラスチック製品製造】
- ・元号が変わることからカレンダーの需要増が見込まれるため、新規設備を導入して対応する。  
【カレンダー製造】

### 卸売業

- ・息子が後継者候補として従事している。私（代表者）自身が元気なうちに時間をかけて事業の承継をおこなう考えである。【食品卸】
- ・7月の豪雨災害以降、大工などからの木材受注が増加している。微力であるが復興の力になればとの思いで対応している。【木材卸】
- ・販売先・売上高ともに増加しているが、米価が上昇しているため利益率は低下傾向である。【米穀卸】

### 小売業

- ・インバウンド効果に加え、グルメ番組に採り上げられるなど、行列ができるほど繁忙となっている。現状に満足せず、店舗装飾やメニュー更新などお客様を飽きさせない努力をおこなう考えである。  
【飲食品の加工販売】
- ・業歴長く知名度は高いが、近年大型量販店に押されお客様が減少傾向である。後継者育成と併せて新たな店舗戦略が必要と感じている。【建材小売】
- ・県内顧客への販売も安定しているが、近年、中国での販売が非常に好調である。【茶、茶道具販売】

### サービス業

- ・現在店舗運営とは別にプライベートブランド商品の開発に力を入れている。【飲食店】
- ・7月の豪雨災害に伴う報道により観光客が一時的に減少し大きな影響を受けた。現在は客足も戻りつつあることから、秋の行楽シーズンに期待したい。【飲食店】
- ・リサイクル品買取において、ネットでの価格比較サイトなどが普及したため、より高く買い取ってもらえる店舗に商品が流れるケースが増えてきた。また、お客様との買取価格交渉も厳しくなっている。  
【リサイクルショップ】

### 建設業

- ・前年と比較して受注量は同程度であるが、材料費が上昇し続けており利益が減少している。【総合建設】
- ・来年の消費増税前までは住宅建築需要の増加が見込まれるため、忙しくなるものの、慢性的な人手不足をいかに解消させるかが今後の課題と考えている。【内装工事】
- ・受注は安定しているが、従業員の高齢化が進んでいる。若手に技術面の承継をおこなうことが急務と感じている。【電気工事】

### 不動産業

- ・7月の豪雨により管理している物件の多くが被災した。現在は落ち着いたが8月頃までは事業活動に大きく影響した。【不動産賃貸・管理】
- ・売上は増加しているものの、在庫である商品物件が少なくなっている。近隣のみならず範囲を広げて探す必要がある。【不動産売買】
- ・物件が少なく価格も高騰しているため、取扱量が減少している。【不動産仲介】

# おかやま信用金庫のサポートメニュー



地域性

中小企業専門性

協同組織性

おかやま信用金庫では地元“おかやま”の中小事業者のお客様、個人のお客様の繁栄と、安心感を抱いていただくための様々なサポートメニューを用意しております。

お取引いただいている営業部店、またはお近くの営業部店にお気軽にご相談ください。スタッフが最適なソリューションをご提案します。

## 調査の要領

- 1) 調査時点 2018年9月3日～7日
- 2) 調査対象期間 2018年7月～9月（9月については感触）
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による面談での聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断DI）を中心に分析  
※DI＝ディフュージョン・インデックスの略  
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格DIについては逆）
- 6) その他 全国DIならびに中国地区DIは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

## 回答率

（単位：先、%）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

## 従業員数

（単位：先）

業種 (単位：人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	20	17	32	44	49	16	178	71.2%
10～19	6	3	2	13	10	2	36	14.4%
20～29	8	1	1	5	3	0	18	7.2%
30～49	2	0	2	2	2	0	8	3.2%
50以上	4	1	1	4	0	0	10	4.0%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

## 資本金

（単位：先）

業種 (単位：千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	19	7	23	36	33	8	126	50.4%
10,000～49,999	17	15	14	29	31	10	116	46.4%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	1	0	0	1	0	0	2	0.8%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

## お客さまへのインタビュー

岡山市内で中華料理店を営んでいる企業の社長様にインタビューをおこないました。

### ～事業の内容・現状について～

当店は岡山で歴史のある老舗中華料理店です。様々な世代向けのメニューを数多く取り揃えていますが、近年、売上は横ばいであり、新規顧客の増加と売上アップを図る必要があると考えています。

### ～当面の重点施策について～

新事業として、利益率の高いテイクアウト事業を売上のもうひとつの柱とすべく取り組んでいます。今までおこなっていなかった新たな周知活動に取り組む予定であり、ホームページや販売促進チラシの作成に着手し、完成後にはSNSとの連動を図ることとしています。また、ターゲットニーズに応じた既存メニューの充実ならびに新メニューの開発をおこなうことで来店客の増加、利益増強に繋げる考えです。

### ～将来像～

今までの受け身の営業スタイルから、「お客様とコミュニケーション」を取り積極的に訴求するスタイルに変えていきます。ターゲットを的確に設定することにより集客力を高めると同時に、仕入れや人繰りなどのロスやムダを削減して効率的な店舗経営を目指します。

そして、来店いただくお客様皆様に満足していただき、毎日でも来たいと思っただけの店舗づくりを目指します。

## 編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断DIは前回調査比で5.2ポイント上昇し5.2と3期ぶりのプラスとなりました。7月の豪雨災害の復旧・復興にはまだ時間はかかるものの、多くの業種において景況感の回復が見られ、岡山の企業が一体となって地元経済を盛り上げるべく活動している様子が窺えます。

おかやま信用金庫では地元岡山の経済ならびに皆様の生活が被災前の状態に戻り、さらに発展するべく取り組みますので、引き続きよろしくお祈りいたします。



おかやま信用金庫  
価値創造部

— 2018.11 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号  
TEL 086 (223) 7672 FAX 086 (226) 2288  
http://www.shinkin.co.jp/okayama/  
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp